

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	愛の家おかざき館			
○保護者評価実施期間	2024年 10月15日		～	2024年11月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	10名
○従業員評価実施期間	2024年10月15日		～	2024年11月1日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月1日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもと保護者の満足度の高さ	職員全員が、良かったことや成長が感じられることを保護者や様々な連携機関に伝えられるようにしている。 できた・できるようになったを大切にしている。 利用者様の言動や行動にしっかりと向き合い、ちょっとした変化などを伝え、保護者・先生等に相談や学校での様子を聞くようにしている。安心してご利用できるようにしている。	一人ひとりに合わせた支援の充実化、スキルアップに向けた専門的な支援、関係機関との連携を行い、ご利用者様の得意なことえを伸ばす取り組みるようにしていく。また、質の高い支援を行うため、従業員のスキル向上をはかる。
2	スペースが確保されていること	運動スペースとゆっくりスペースを部屋の中で分けて空間を作り、多様な活動や遊びができるようにしている。 自分自身で遊びやおもちゃの選択できるように収納ケースに写真などを貼り付け視覚的にも選択できるように工夫している。	空間を分ける際、動線は大丈夫なのか、遊びにくくなっていないのか、安心・快適な部屋を提供できているのか、子どもの目線になって、改善できるところは些細なことでも気づき改善に努めます。
3	様々な活動プログラム	子どものやりたいを実現できるように、留意している。 全員が経験を積み重ねできるようにしている。 季節に合わせた活動の立案をしている。	活動プログラムのアンケートを取り、保護者様のご要望をしっかりと受け止め、支援や活動等に反映させる。 ま職員自身の知識を高めるための研修や勉強の機会をもつ。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家庭支援の不十分さ (保護者やペアレントトレーニング)	スキル不足	来年度、計画的に実施できるように立案する。
2	外部とのつながりが薄い (地域の他の子ども施策との関わりなど)	他事業所との関係が不十分ではない	地域のイベントへ積極的に参加をする。
3	チームでの活動の立案と振り返りの不十分さ	人員不足・準備の時間がかかる	デジタルで共有する機能の強化。